

この説明書は、本剤とともに保管し、使用の際には、よくお読みください。

お子さま用熱さまし

# キオフィーバ こども解熱坐薬

第2類医薬品

- ◎お子さまの平熱は大人より高く、多少熱を出しても元気な場合もあります。しかし、高熱(一般に38度以上)の場合には、体力の消耗や熱性けいれんを招くおそれもあり、熱を下げるのが大切です。
- ◎キオフィーバは、直接腸から成分を吸収しますので、胃を痛めず、早く作用して、効果的に熱を下げます。

## ⚠ 使用上の注意

本剤は小児用ですが、解熱薬として定められた一般的な注意事項を記載しています。

### ⊗ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人は使用しないでください。
  - (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
  - (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を使用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を使用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください。  
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
3. 使用前後は飲酒しないでください。
4. 長期連用しないでください。

### 👤 相談すること

1. 次の人は使用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
  - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
  - (3) 高齢者。
  - (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
  - (5) 次の診断を受けた人。  
心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍
2. 使用后、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症状	関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ	精神神経系	めまい
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振	その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック(アナフィラキシー)	使用后すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群(スティーブス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
腎障害	尿量減少、発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。

3. 1回使用して症状がよくなる場合は使用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

(裏面も必ずお読みください。)

## 成分・分量

1個(950mg)中 アセトアミノフェン……………100mg 添加物としてハードファットを含む

## 効能・効果



夜間などの  
急な発熱に

小児の発熱時の一時的な解熱



口から  
のみにくい時に  
(吐きやすい、食欲が  
ない、せきがひどい等)

## 用法・用量

次の量を肛門内に挿入してください。

1/2個を使用する場合

年齢	1才未満	1~2才	3~5才	6~12才
1回量	使用しないこと	1/2~1個	1個	1~2個
使用回数		1日1回		



斜めの線にそって、  
カッターナイフや  
ハサミで切り、1個  
を使用する場合と同  
様の方法で使用して  
ください。

### 〈注意〉

- (1)保護者の指導監督のもとに使用させてください。
- (2)用法・用量を厳守してください。
- (3)1才未満の乳児には使用しないでください。
- (4)使用は1日1回とし、2日続けて使用しないでください。
- (5)肛門にのみ使用し、内服しないでください。

### 坐薬の使い方

薬がすぐ出ないように、なるべく排便をすませてから使いましょう。



先のとがった方から  
開いてください。



お尻の奥まで差し込んでください。仰向けが挿入しやすい場合が多いです。挿入しにくい場合は、先だけをオリーブ油や水で濡らし、すべりやすくしてください。坐薬が外へ出てしまわないように、必ず数十秒間は指でそのまま押さえおいてください。



### 発熱時の注意

- 汗ばんだ衣類は早めにとりかえましょう。
- 発熱により汗をかいて、水分が失われます。水分をきっちり補いましょう。
- 熱の上がり際に寒くてゾクゾクしている時は、身体をあたためてあげましょう。
- 氷枕などで頭を冷やすと、薬になる時があります。ただし、冷やすことで熱が下がるわけではありません。嫌がるようであれば、無理に冷やす必要はありません。

### 保管及び取扱い上の注意

- (1)直射日光の当たらない湿気の少ない30℃以下の涼しい所(冷蔵庫等)に、右図のように坐薬の先端を下に向け、立てて保管してください。
- (2)小児の手の届かない所に保管してください。
- (3)誤用をさけ、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないでください。

外箱の正面

解熱坐薬

〈上〉



〈下〉

製品についてのお問合せは、お買い求めのお店、又は下記に  
お願い致します。

お客様相談室 樋屋奇応丸株式会社 電話：072-871-2990  
〒574-0014 大阪府大東市寺川3-3-63 受付：月～金曜日(祝日を除く)9:00～17:30



〈発売元〉 樋屋奇応丸株式会社  
〒530-0043 大阪市北区天満1-4-11  
〈製造販売元〉 樋屋製薬株式会社 大阪工場  
〒574-0014 大阪府大東市寺川3-3-63